

⑯ 日本国特許庁 (JP)  
⑰ 公開特許公報 (A)

⑮ 特許出願公開  
昭57-93621

⑯ Int. Cl.<sup>3</sup>  
F 01 P 7/14  
// F 01 P 3/20

識別記号

序内整理番号  
7137-3G  
7137-3G

⑯ 公開 昭和57年(1982)6月10日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 13 頁)

⑯ エンジンの冷却装置

⑰ 特 願 昭55-169934  
⑰ 出 願 昭55(1980)12月2日  
⑰ 発明者 古久保辰巳  
裾野市御宿1200番地

⑯ 発明者 平山力

裾野市御宿1321番地

⑯ 出願人 トヨタ自動車工業株式会社  
豊田市トヨタ町1番地

⑯ 代理人 弁理士 明石昌毅

明細書

1. 発明の名称

エンジンの冷却装置

2. 特許請求の範囲

シリンダヘッドに設けられた第一のウォータジャケットと、シリンダブロックに設けられた第二のウォータジャケットと、前記第一及び第二のウォータジャケットを通る冷却水流を各々付勢する第一及び第二のウォータポンプと、ラジエータと、前記第一及び第二のウォータジャケットの出口をそれらの入口に接続し途中に前記ラジエータを含む第一の連流通路と、前記第一及び第二のウォータジャケットの出口をそれらの入口に接続し途中に前記ラジエータを含まない第二の連流通路と、前記第一のウォータジャケットに対する第一及び第二の連流通路の接続及び前記第二のウォータジャケットに対する前記第一及び第二の連流通路の接続を切換える切換弁とを有し、前記切換弁は前記第二のウォータジャケットを貫流する水温が第一の温度以下のとき前記第二の連流通路を前記第一の連流通路と接続する構成である。

一及び第二のウォータジャケットに接続し前記第一の連流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットより切離し前記水温が前記第一の温度以上で該第一の温度より大きい第二の温度以下のとき前記第一の連流通路を前記第一のウォータジャケットに接続し前記第二の連流通路を前記第二のウォータジャケットに接続し前記水温が前記第二の温度以上のとき前記第一の連流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットに接続し前記第二の連流通路を前記第一のウォータジャケットより切離すよう構成され、更に前記ラジエータをバイパスして前記第一の連流通路の途中を前記第一のウォータジャケットの入口に接続するバイパス通路と、前記第一のウォータジャケットを貫流する冷却水の水温が所定温度以下に低下することを防止すべく前記バイパス通路を通過する冷却水の流量を制御する流量制御弁とを有していることを特徴とするエンジンの冷却装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明はエンジンの冷却装置に係り、特に火花

点火式エンジンに於て、エンジンの出力性能、燃費、排気ガス対策等の観点からシリンダヘッドのウォータジャケットを流れる冷却水の温度とシリンダブロックのウォータジャケットを流れる冷却水の温度を個別に制御できるよう構成された冷却装置に関するものである。

火花点火式のエンジンに於ては、シリンダヘッドが強力に冷却されれば、メカニカルオクタン価が向上し、ノッキングの発生が抑制され、これに伴ないエンジンの出力性能及び燃費を向上できることは從来から知られている。

しかし、從来から一般に用いられている水冷式エンジンに於ては、シリンダヘッドに設けられたウォータジャケットを流れる冷却水とシリンダブロックに設けられたウォータジャケットを流れる冷却水とが途中にラジエータを含む一つの共通の還流通路を経て還流し、シリンダヘッドのウォータジャケットを流れる冷却水の温度とシリンダブロックのウォータジャケットを流れる冷却水の温度とを個別に制御することができない。このため

— 3 —

口をそれらの入口に接続し途中に前記ラジエータを含まない第二の還流通路と、前記第一のウォータジャケットに対する第一及び第二の還流通路の接続及び前記第二のウォータジャケットに対する前記第一及び第二の還流通路の接続を切換える切換弁とを有し、前記切換弁は前記第二のウォータジャケットを貫流する水温が第一の温度以下のとき前記第二の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットに接続し前記第一の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットより切離し前記水温が前記第一の温度以上で該第一の温度より大きい第二の温度以下のとき前記第一の還流通路を前記第一のウォータジャケットに接続し前記第二の還流通路を前記第二のウォータジャケットに接続し前記水温が前記第二の温度以上のとき前記第一の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットに接続し前記第二の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットより切離すよう構成された冷却装置が本願出願人と同一の出願人によって既に提案されている。

— 5 —

上述の如き水冷式エンジンに於ては、シリンダヘッドのウォータジャケットを流れる冷却水の温度を小さくしてシリンダヘッドを強力に冷却しようとすると、シリンダブロックのウォータジャケットを流れる冷却水の温度もそれに伴ない低下し、シリンダブロックのウォータジャケットを流れる冷却水の温度の影響を強く受けるエンジン潤滑油の温度も低下し、エンジンの摩擦損失が増大し、また燃焼室の周壁の温度低下に伴ない排気ガス中のハイドロカーボンの濃度が増大するという不具合が生ずる。

上述の如き不具合に鑑みて、シリンダヘッドに設けられた第一のウォータジャケットと、シリンダブロックに設けられた第二のウォータジャケットと、前記第一及び第二のウォータジャケットを通る冷却水流を各々付勢する第一及び第二のウォータポンプと、ラジエータと、前記第一及び第二のウォータジャケットの出口をそれらの入口に接続し途中に前記ラジエータを含む第一の還流通路と、前記第一及び第二のウォータジャケットの出

— 4 —

上述の如き冷却装置に於ては、第二のウォータジャケットを貫流する冷却水の水温が第一の温度以上の時には、換言すれば暖機完了後には第一のウォータジャケットを貫流した冷却水のみが常にラジエータを含む第一の還流通路を経て第一のウォータジャケットに還流し、第二のウォータジャケットを還流した冷却水はこれの水温が第二の温度以上になった時のみ前記第一の還流通路を経て第二のウォータジャケットに還流し、それ以外の時にはラジエータを含まない第二の還流通路を経て第二のウォータジャケットに貫流するので、シリンダヘッドは強力に冷却されるが、シリンダブロックは強力に冷却されず、シリンダブロックは暖機完了状態の適温に保たれ、エンジンの摩擦損失や排気ガス中のハイドロカーボン濃度を増大することなくエンジンのメカニカルオクタン価を向上でき、これによりエンジンの出力性能及び燃費を向上することができる。しかもこの冷却装置に於ては、暖機中には第一及び第二のウォータジャケットを貫流した各々の冷却水が第二の還流通路

— 6 —

を経て互に合流して前記ウォータジャケットに還流するので暖機中、第一のウォータジャケットを貢流した冷却水と第二のウォータジャケットを貢流した冷却水とが互に合流することなく個別に各ウォータジャケットに還流する場合に比してシリンドラブロックの暖機が速く、シリンドラブロックの暖機時間が上述の如き従来型の水冷エンジンの暖機時間と同等になる。

しかし、シリンドラブロックの暖機完了後は、第一のウォータジャケットを貢流した冷却水はラジエータにて温度制御されることなく冷却されるので、この冷却水の水温はほぼ外気温度近くまで低下し、このため特に外気温度が低い冬期に於ては、第一のウォータジャケットに還流する冷却水の水温が低下し過ぎ、シリンドラヘッドが強力に冷却されなくてもノッキングが発生することがないエンジンの低負荷運転域に於ては却って燃費が悪化し、また排気ガス中のハイドロカーボン濃度が増大することがある。

また上述の如き冷却装置に於て、車内暖房用の

— 7 —

温度を低下して行き、前記第一の温度以下になる。すると、暖機中と同様に第一及び第二のウォータジャケットを貢流した冷却水が互に合流して第二の還流通路を循環するようになるが、第一のウォータジャケットを貢流した冷却水は今までラジエータにて冷却され、ほぼ外気温度になっているので、これが第二のウォータジャケットに貢流した冷却水と混り合うと、その混合された冷却水の水温が低下し、ヒータの入口水温が更に低下してしまうことになる。シリンドラヘッドとシリンドラブロックの冷却水受熱量はヒータの放熱量に比して多いため、前記冷却水の水温は徐々に上昇して復帰するがこの間、ヒータの入口温度が低く、ヒータの放熱量が低下するという不具合が生じる。

本発明は従来の冷却装置に於ける上述の如き不具合に鑑み、暖機完了後に於て第二のウォータジャケットを貢流する冷却水の水温制御のみならず、第一のウォータジャケットを貢流する冷却水の水温制御を行ない、シリンドラヘッドを過冷却することなくエンジンのメカニカルオクタン価を向上さ

ヒータが第二の還流通路を流れる冷却水の熱を熱源としている場合、暖機中は上述の如く第一及び第二のウォータジャケットを貢流した冷却水が合流して第二の還流通路を経て循環するため、シリンドラヘッドとシリンドラブロックの冷却水受熱量により車内暖房用のヒータの放熱量が賄われ、ヒータには十分な熱量が供給されるが、暖機完了後は第一のウォータジャケットを還流した冷却水の熱はラジエータにて放熱され、第二のウォータジャケットを還流した冷却水のみが第二の還流通路を経て循環するため、シリンドラブロックの冷却水受熱量のみにてヒータの放熱量を賄うことになる。シリンドラブロックの冷却水受熱量は、一般に、シリンドラヘッドとシリンドラブロックの冷却水受熱量の和の半分以下であり、このため特にエンジンが低回転、低負荷にて運転されている時には第二のウォータジャケットを貢流した冷却水のみではヒータに十分な熱量が供給されなくなる。このような状態になると、第二のウォータジャケットを貢流した冷却水はヒータにより熱量を奪われてその

— 8 —

せて排気ガス中のハイドロカーボン濃度の増大やヒータの放熱量不足を招来することなくエンジンの出力性能及び燃費の向上を図ることができる改良された冷却装置を提供することを目的としている。

かかる目的は、本発明によれば、上述の如き冷却装置に於て、更に前記ラジエータをバイパスして前記第一の貢流通路の途中を前記第一のウォータジャケットの入口に接続するバイパス通路と、前記第一のウォータジャケットを貢流する冷却水の水温が所定温度以下に低下することを防止すべく前記バイパス通路を通過する冷却水の流量を制御する流量制御弁とを有している如きエンジンの冷却装置によって達成される。

以下に添付の図を参照して本発明を実施例について詳細に説明する。

第1図は本発明によるエンジンの冷却装置の一つの実施例を示す線図である。第1図に於て、1はエンジンを示しており、このエンジン1は、主に各気筒の燃焼室の頭部を構成するシリダヘッド

— 9 —

— 10 —

2と、前記燃焼室の周壁を構成するシリンドラブロック3とを有している。シリンドラヘッド2とシリンドラブロック3には各々ウォータジャケット4、5が互に個別に設けられており、これらウォータジャケット内を冷却水が個別に貢流するようになっている。

ウォータジャケット4、5の入口6、7にはウォータポンプ10、11が接続されており、該ウォータポンプにより冷却水が各ウォータジャケット内へ供給されるようになっている。入口6、7に供給された冷却水はウォータジャケット4、5内を個別に貢流し、その間にシリンドラヘッド2及びシリンドラブロック3の冷却を行ない、冷却水出口8、9へ至る。

出口8は導管12を経て、また出口9は導管13及び途中に制御弁15を有する導管16を経て制御弁14の一方のポートに接続されている。制御弁14は他方のポートにて導管17を経てラジエータ18の入口19に接続されている。ラジエータ18の出口20は導管21、22を経てウォ

- 11 -

入力される。コンピュータ33は比較回路などを含むそれ自身周知の演算制御回路を含んでおり、水温センサ32により検出された冷却水の水温が第一の温度以下の時には制御弁14に閉弁信号を、制御弁15に開弁信号を各々出力し、前記水温が第一の温度以上で該第一の温度より大きい第二の温度以下である時には制御弁14に開弁信号を、制御弁15に閉弁信号を各々出力し、前記水温が第二の温度以上の時には制御弁14、15、30の各々に開弁信号を出力するようになっている。またコンピュータ33は水温センサ32が第二の温度以下を検出していて水温センサ31により検出された冷却水の水温が前記第一の温度より小さい第三の温度以下の時には制御弁30に閉弁信号を、前記水温が前記第三の温度以上の時開弁信号を出力するようになっている。

次に上述の如き構成からなる冷却装置の作用について説明する。

まず、温度センサ32が検出する水温が第一の温度以下、例えば80°C以下の温度を検出してい

タポンプ10に、また導管21、23を経てウォータポンプ11に各々接続されている。

また出口8は導管12、16及び導管24を経て導管23の途中に接続され、また出口9は導管13と24を経て導管23の途中に接続されている。

25は車内暖房用のヒータコアを示しており、このヒータコアはその入口にて導管26を経て導管24の上流部に、また出口にて導管27を経て導管24の下流部に各々接続されている。導管26の途中には開閉弁28が設けられている。

導管17はその途中にて導管29を経て導管21に接続されている。導管17と29との接続部より下流側の導管17の途中には制御弁30が設けられている。

導管12と13の途中には各々水温センサ31、32が設けられており、この水温センサは各ウォータジャケットの出口部に於ける冷却水の水温を検出するようになっている。温度センサ31、32が発生する温度信号は各々コンピュータ33へ

- 12 -

る時、即ちエンジン暖機中について説明する。この時にはコンピュータ33が発生する指令信号により制御弁14は閉弁し、制御弁15は開弁している。従ってこの時にはシリンドラヘッド2のウォータジャケット4を貢流してその出口8へ来た冷却水は導管12、16、制御弁15を経て導管24へ流れ、またウォータジャケット5を貢流してその出口9へ来た冷却水は導管13を経て導管24へ流れ、この両冷却水は導管24にて互に合流して導管23へ至り、その一部はウォータポンプ11により入口7よりウォータジャケット5に戻され、残りは導管21、22を経てウォータポンプ10により入口6よりウォータジャケット4に戻される。このようにエンジン暖機中はウォータジャケット4及び5を貢流する冷却水は全てラジエータ18へは流れず、互に合流して循環するためにシリンドラヘッド2とシリンドラブロック3は同時にまた同様に暖機されることになる。かかる状態にてヒータが使用される場合について説明すると、開閉弁28が開弁することにより導管24を

- 13 -

流れる冷却水の一部が導管 26 を経てヒータコア 25 へ流れ、ここで図示されていないプロアにより送風される空気と熱交換して放熱し、その後導管 27 を経て導管 24 に戻る。この時のヒータコア 25 の放熱量はシリンダヘッド 2 及びシリンダブロック 3 に於て冷却水が受熱した熱量により貯えることになるからヒータコア 25 には充分な熱量が供給され、これの放熱量不足が生じることがない。

次に水温センサ 32 が第一の温度以上、例えば 80°C 以上を検出している時、即ちエンジン暖機完了後について説明する。この時にはコンピュータ 33 が発生する制御信号により制御弁 14 が開弁し制御弁 15 が閉弁している。またこの時には水温センサ 31 は前記第一の温度より低い第三の温度、例えば 20°C 以上を検出しているからコンピュータ 33 は制御弁 30 に開弁信号を出力し、これによって制御弁 30 は開弁している。従ってこの時にはシリンダヘッド 2 のウォータジャケット 4 を貢流した冷却水はその出口 8 より導管 12 、

- 15 -

ケット 4 に戻される。このようにウォータジャケット 4 を貢流する冷却水の水温が第三の温度以下になると、該冷却水はラジエータ 18 を流れず循環するため、この冷却水の水温は再び上昇する。そしてその水温が第三の温度を越えて上昇すると、再び制御弁 30 がコンピュータ 33 よりの制御信号により開弁し、導管 17 を流れる冷却水がラジエータ 18 を通過するようになる。以後制御弁 30 の開弁と閉弁が繰返されることによりウォータジャケット 4 を貢流する冷却水の温度はほぼ第三の温度 (20°C 程度) に維持される。

一方、シリンダブロック 3 のウォータジャケット 4 を貢流する冷却水はその出口 9 より導管 13 、24、23 を経てウォータポンプ 11 により入口 7 からウォータジャケット 5 に戻される。このようにウォータジャケット 5 を貢流する冷却水は暖機中と同じ経路を循環するため、その水温は更に徐々に上昇する。その冷却水の水温が第二の温度以上、例えば 95°C 以上になり、このことが水温センサ 32 により検出されると、コンピュータ 3

制御弁 14 、導管 17 を経て制御弁 30 へ流れ。この時制御弁 30 は上述の如く、開弁しているから、この冷却水の大部分はラジエータ 18 へ流れ、該ラジエータを通過する際に冷却されて導管 21 、22 を経てウォータポンプ 10 により入口 6 からウォータジャケット 4 へ戻され、また残りの冷却水は導管 29 、22 を経て上述の如くラジエータ 18 を通過した冷却水と共にウォータポンプ 10 により入口 6 からウォータジャケット 4 に戻される。これによりウォータジャケット 4 を貢流する冷却水はラジエータ 18 による冷却作用により低温になっていく。その冷却水の水温は水温センサ 31 により検出され、該水温センサによりその冷却水の水温が第三の温度以下、例えば 20°C 以下になったことが検出されると、コンピュータ 33 は制御弁 30 に開弁信号を出力する。これにより制御弁 30 は閉弁する。制御弁 30 が閉弁すると、導管 17 を流れる冷却水は、その全量が導管 29 、22 を経てラジエータ 18 を通過することなくウォータポンプ 10 により入口 6 からウォータジャ

- 16 -

3 の信号により制御弁 15 及び 30 が開弁する。この時にはウォータジャケット 5 を貢流した冷却水はその一部が導管 13 、制御弁 15 、導管 16 、制御弁 14 、導管 17 、制御弁 30 を経てラジエータ 18 へ流れ、ラジエータ 18 を通過する際に冷却され、その後導管 21 、23 を経てウォータポンプ 11 により入口 7 からウォータジャケット 5 に戻される。またこの時、残りの冷却水は導管 13 、24 、23 を経て上述の如くラジエータ 18 を通過した冷却水と共にウォータポンプ 11 により入口 7 からウォータジャケット 5 に戻される。ウォータジャケット 5 にラジエータ 18 を通過して冷却された冷却水が貢流することによりその冷却水の水温は低下する。そしてその冷却水の水温が再び第二の温度以下になると、制御弁 15 が閉弁し、ウォータジャケット 5 にはラジエータ 18 を通過した冷却水が供給されなくなる。以後制御弁 15 の閉弁と開弁が繰返されることによりウォータジャケット 5 を貢流する冷却水の水温は第二の温度 (95°C 程度) に維持される。

- 18 -

次に上述の如き暖機完了後に於てヒータが使用された場合について説明する。ヒータの使用に際して開閉弁 28 が開弁され、導管 24 を流れる冷却水の一部がヒータコア 25 を通過して流れることは上述した暖機中と同様である。しかし、この時にはヒータコア 25 の放熱量はウォータジャケット 5 を貢流する冷却水の受熱量だけで賄うことになるため、特にエンジンが低回転低負荷にて運転されている時などはヒータコア 25 の放熱能力に比してこの冷却水の受熱量が不足し、ウォータジャケット 5 を貢流する冷却水の水温が低下する結果になる。このようにウォータジャケット 5 を貢流する冷却水の水温が低下してその水温が第一の温度以下になり、このことが水温センサ 32 により検出されると、コンピュータ 33 は制御弁 14 に開弁信号を制御弁 15 に開弁信号を出力するようになり、これにより制御弁 14 は開弁し、制御弁 15 は開弁する。即ちこの時には、暖機時と同様に冷却水が流れるようになり、ヒータコア 25 の放熱量はシリンドヘッド 2 及びシリンドブロック 3 の各々の冷却水受熱量が多いことにより徐々に上昇し復帰する。

制御弁 30 及び導管 29 が設けられていないと、暖機完了後、外気温度が非常に低い場合、ウォータジャケット 4 を貢流する冷却水の水温はほぼそれに近い温度まで低下しており、このため上述の如き制御弁の切換時に導管 24 を流れる冷却水の水温が復帰する時間が長くかかるが、本発明による冷却装置によれば、外気温度が非常に低い時でもウォータジャケット 4 を貢流する冷却水の水温は所定温度、例えば 20°C 以下とならないようその冷却水の温度制御がなされているので、冷却水

- 19 -

- 20 -

の水温の復帰に要する時間が短くなり、ヒータコア 25 の放熱量不足期間を短くすることができる。

第 2 図は本発明による他の一つの実施例を示している。尚、第 2 図に於て第 1 図に対応する部分は第 1 図に付した同一の符号により示されている。かかる実施例に於ては、制御弁 30 に代えて導管 17 と 29 との分岐部に三方向切換弁 34 が設けられている。コンピュータ 30 は水温センサ 32 が第二の温度以下を検出していて水温センサ 31 が検出する水温が第三の温度以下の時には三方向切換弁 34 に第一の指令信号を出力し、これに対し水温センサ 32 が第二の温度以上を検出している時、或いは水温センサ 31 が前記第三の温度以上を検出している時には三方向切換弁 34 に第二の制御信号を出力するようになっている。三方向切換弁 34 は前記第一の制御信号を与えられている時にはポート a をポート b に代えてポート c に接続し、これに対し前記第二の信号を与えられている時にはポート a をポート c に代えてポート b に接続するようになっている。

- 21 -

従って、かかる実施例に於ては、水温センサ 31 が第三の温度以上を検出している時には導管 17 を流れる全ての冷却水がラジエータ 18 へ流れ、これに対し水温センサ 31 が第三の温度以下を検出している時には導管 17 を流れる冷却水の全てが導管 29 を経てラジエータ 18 を流れることなくウォータジャケット 4 に戻される。従ってこの場合には上述した実施例に於ける冷却装置よりシリンドヘッド 2 のウォータジャケット 4 を貢流する冷却水の水温をより速く所定温度に設定できる。

第 3 図は本発明による冷却装置の更に他の一つの実施例を示している。尚、第 3 図に於て第 1 図に対応する部分は第 1 図に付した符号と同一の符号により示されている。かかる実施例に於ては、制御弁 30 に代えた感温弁 35 が設けられており、該感温弁 35 によって導管 17 の開閉が制御されるようになっている。感温弁 35 はハウジング 36 を有し、該ハウジングに設けられた弁座部 37 に選択的に着座する弁要素 38 により導管 17 の連通と遮断を行なうようになっている。弁要素 38

- 22 -

8は感温アクチュエータ39のケース40に取付けられている。感温アクチュエータ39はそのケース内にワックスの如き熱膨張性物質41を封入されており、該熱膨張性物質41が固相状態である時には図示されている如き位置にあってはね42のはね力により弁要素38を弁座部37に着座させ、これに対し前記熱膨張性物質が溶解して体積膨張した時にはケース40がニードルガイド43に案内されつつニードル44に対し図にて右方に移動することにより弁要素38をばね42の作用に抗して図にて右方に駆動し、これを弁座部37より引離すようになっている。熱膨張性物質41は導管17を流れる冷却水の水温に感応し、それが第三の温度を越えて上昇した時溶解するようその材質が設定されている。

この実施例に於ては感温弁35の感温アクチュエータ39自身が冷却水水温に感応して作動するので水温センサ31は省略されている。

かかる実施例に於ても、暖機完了後に於ては、感温弁35の作用によりラジエータ18及び導管

- 2 3 -

もう一つの流出ポート54には導管24が各々接続されている。

また、導管13には導管26が、導管24には導管27が各々接続されている。

制御弁50は第5図に良く示されている。この制御弁50はケーシング組立体55を有している。ケーシング組立体55は隔壁56により区分された二つの室57、58を有しており、室57には流入ポート51と流出ポート53が開いており、室58には流入ポート52と流出ポート54が開いている。隔壁56には室57と58とを連通する二つの連通ポート59、60が形成されている。流出ポート53と連通ポート59、また流出ポート54と連通ポート60とは各々同一軸線上に設けられている。

ケーシング組立体55はその内部に固定されたホルダ61を有しており、該ホルダは、円盤状の弁要素62と共に駆動して流出ポート53を開閉する円環状の弁座部63と、円盤状の弁要素64と共に駆動して連通ポート59を開閉する円環状の弁座部

- 2 5 -

29を通過する冷却水の流量が制御され、ウォータジャケット4にはほぼ第三の温度の冷却水が供給され、これに供給される冷却水の水温が過剰に低下する事がない。従って、かかる実施例に於ても第1図に示された実施例に於けるそれと同様の作用効果が得られることが理解されよう。

第4図は本発明による冷却装置の更に他の一つの実施例を示している。尚、第4図に於て第1図及び第3図に対応する部分は第1図及び第3図に付した符号と同一の符号により示されている。かかる実施例に於ては、電気作動式の制御弁14、15に代えて制御弁50によりウォータジャケット4、5を貫流した冷却水の水路の切換が第1図や第3図に示された実施例のそれと実質的に同様に行なわれるようになっている。

この実施例に於ては、出口8、9は導管12、13を経て各々制御弁50の流入ポート51、52に接続されている。

制御弁50は二つの流出ポート53、54を有しており、このうち流出ポート53は導管17が、

- 2 4 -

65とを有している。弁要素62と64は一つの弁軸66にその軸線方向に隔壁されて固定されている。弁軸66はその一端にて感温アクチュエータ67に接続されている。感温アクチュエータ67は室58内にてホルダ61に固定されたケース68を有しており、該ケース内にはワックスの如き熱膨張性物質69が封入されている。熱膨張性物質69は室58内を流れる冷却水の水温に感応し、該水温が或る温度、例えば80℃以下のときには固相状態で、前記水温が80℃を越えて上昇したときには溶解して体積膨張するようになっている。熱膨張性物質69が固相状態であるときには、弁軸66は図示されている如くケース68内に比較的深く進入し、弁要素62を弁座部63に着座させて流出ポート53を閉じ、また弁要素64を弁座部65より引離して連通ポート59を開いている。これに対し熱膨張性物質69が溶解して体積膨張したときには、弁軸66はばね71のはね力に抗してガイド部材70に案内されつつ図にて上方へ移動し、弁要素64を弁座部65に着

- 2 6 -

座させて連通ポート59を閉じ、弁要素62を弁座部63より引離して流出ポート53を開くようになっている。

またケーシング組立体55はその内部に固定されたもう一つのホルダ72を有しており、このホルダ72は弁要素73と共に動して連通ポート60を開閉する弁座部74を有している。弁要素73は感温アクチュエータ75のケース76に取付けられている。ケース76は空58内にあり、このケース内にはニードル77の一端が進入しており、またワックスの如き熱膨張性物質78が封入されている。ニードル77はその他端にてホルダ72に固定されている。ケース76には軸部材79の一端が固定されている。軸部材79は円盤状の弁要素80をその軸線方向に移動可能に支持しており、該弁要素はばね81により軸部材79に取付けられてスナップリング82へ向けて付勢されている。弁要素80はケーシング組立体55に形成された弁座部83と共に動して流出ポート54を開閉するようになっている。熱膨張性物質78は空

- 27 -

き状態にある。即ち、流出ポート53が弁要素62により、また連通ポート60が弁要素73により各々閉じられ、連通ポート59と流出ポート54が開かれている。従ってこのときにはシリンダヘッド2のウォータジャケット4を貢流してその出口8へ来た冷却水は導管12を経て流入ポート51より空57内に入り、連通ポート59を経て空58へ流れる。またシリンダブロック3のウォータジャケット5を貢流してその出口9へ来た冷却水は導管13を経て流入ポート52より空58に流入する。空58に流入したウォータジャケット4と5からの冷却水は全て流出ポート54より導管24を経て導管23へ流れ、その一部はウォータポンプ11により入口7よりウォータジャケット5内へ戻され、また残りの冷却水は更に導管18、22を経てウォータポンプ10により入口6よりウォータジャケット4へ戻される。このようにエンジン暖機中はウォータジャケット4及び5を貢流する冷却水は全てラジエータ15へは流れず、一部共通の通路を経て循環し、その共通の

58内を流れる冷却水の水温に感応し、該水温が或る温度、例えば95°C以下のときには固相状態を呈し、前記水温が95°Cを越えて上昇したとき溶解して体積膨張するようになっている。熱膨張性物質78が固相状態であるときには、ケース76は弁要素73を弁座部74に着座させて連通ポート60を閉じ、弁要素80を弁座部83より引離して流出ポート54を開き、これに対し熱膨張性物質78が溶解して体積膨張したときには、ケース76はガイド部材84に案内されつつニードル77に対しほね85のはね力に抗して図にて下方に変位し、弁要素80を弁座部83に着座させて流出ポート54を閉じ、弁要素73を弁座部74より引離して連通ポート60を開くようになっている。

次に上述の如き構成からなる制御弁の作用について説明する。

まず、エンジン暖機中、即ち全ての冷却水の温度が80°C以下のときについて説明する。このときには制御弁50の各弁要素は図示されている如

- 28 -

通路、即ち導管24を流れる際にウォータジャケット4を貢流した冷却水とウォータジャケット5を貢流した冷却水とが合流し、その後にウォータジャケット4と5に分配される。

次にエンジンの暖機が完了して冷却水の温度が80°Cを越えて上昇したときについて説明する。冷却水の水温が80°Cを越えて上昇すると、感温アクチュエータ67の熱膨張性物質69が溶解し、これが体積膨張することにより弁軸66が図にて上方に駆動され、これにより弁要素64が弁座部65に着座して連通ポート59が閉じられ、弁要素62が弁座部63より離れて流出ポート53が開かれ。尚、このときには感温アクチュエータ75の熱膨張性物質78は固相状態のままであるので、弁要素73、80は上述の如き暖機中に於ける状態を維持する。このときにはウォータジャケット4を貢流して出口8へ来た冷却水は導管12を経て流入ポート51より空57に流入し、流出ポート53より導管17を経て感温弁35へ至り、該感温弁35を開くようになる。このため該

- 29 -

- 30 -

冷却水はその殆どがラジエータ18の入口19へ流れ、ラジエータ18内を貢流する。この冷却水はラジエータ18を貢流する際に冷却され、出口20より導管21、22を経てウォータポンプ10により入口6よりウォータジャケット4内に戻される。またこの時導管17を流れる冷却水の一部は導管29を経て前記ラジエータを通過した冷却水と共にウォータポンプ10よりウォータジャケット4内に戻される。この実施例に於ても感温弁35が導管17を通過する冷却水の水温に感応して開閉し、これによりウォータジャケット4を貢流する冷却水の水温が所定温度以下に低下することが回避される。

またウォータジャケット5を貫通してそれの出口9へ来た冷却水は導管13を経て流入ポート52より室58内に流入し、流出ポート54より導管24、23を経てウォータポンプ11により入口7からウォータジャケット5内に戻される。上述の如く、このときにはウォータジャケット4にはラジエータを通過して冷却された冷却水が貢流

- 3 1 -

供給されるようになる。これによりウォータジャケット5を流れる冷却水の温度が下がり、シリンドラブロック2が冷却される。この温度が或る程度下がると、感温アクチュエータ75の熱膨張性物質78が再び凝固して固相状態となるため、暖機完了直後の状態に戻り、また温度が上ると、上述の如き状態となり、以後これが繰り返される。これによりシリンドラブロック3の温度が潤滑油の物性変化を与える如き高温になることが回避される。

尚、かかる実施例に於ても上述の実施例と同様に冷却水の水温に応じて冷却水水路が切換られるから、上述の実施例と同様の作用効果が得られることが理解されよう。

以上に於ては本発明を特定の実施例について説明したが本発明はこれらに限定されるものではなく本発明の範囲内にて種々の実施例が可能であることは当業者にとって明らかであろう。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図乃至第4図は各々本発明による冷却装置を備えたエンジンの実施例を示す線図、第5図は

し、これに対しウォータジャケット5にはラジエータを通過しない、即ち冷却されていない冷却水が貢流するためシリンドラヘッド2はシリンドラブロック3に比して強力に冷却される。

この後、ウォータジャケット4を貢流する冷却水の温度の上昇は抑制されるが、ウォータジャケット4を流れる冷却水はこれ以降も上昇し続ける。これにより室58を流れる冷却水は引続き上昇する。この冷却水の水温が95°Cを越えて上昇するようになると、感温アクチュエータ75の熱膨張性物質78が溶解して体積膨張することにより弁要素73は連通ポート60を開き、弁要素80は流出ポート54を閉じるようになる。このときにはウォータジャケット4を貢流して室58に流入した冷却水も連通ポート60、室57を経て流出ポート53へ至り、ラジエータ18へ向けて流れようになる。このため、この時には、ウォータポンプ10と11の各々にはラジエータ18を通過して冷却された冷却水が与えられ、ウォータジャケット4と5の両方にその冷却された冷却水が

- 3 2 -

本発明装置に用いられる制御弁の一つの実施例を示す断面図である。

1～エンジン、2～シリンドラヘッド、3～シリンドラブロック、4、5～ウォータジャケット、6、7～入口、8、9～出口、10、11～ウォータポンプ、12～13～導管、14、15～制御弁、16、17～導管、18～ラジエータ、19～入口、21～24～導管、25～ヒータコア、26、27～導管、28～開閉弁、29～導管、30～制御弁、31、32～温度センサ、33～コンピュータ、34～三方向切換弁、35～感温弁、36～ホルダ、37～弁座部、38～弁要素、39～感温アクチュエータ、40～ケース、41～熱膨張性物質、42～ばね、43～ニードルガイド、44～ニードル、50～制御弁、51、52～流出ポート、53、54～流出ポート、55～ケーシング組立体、56～隔壁、57、58～室、59、60～連通ポート、61～ホルダ、62～弁要素、63～弁座部、64～弁要素、65～弁座部、66～弁軸、67～感温アクチュエータ、68～

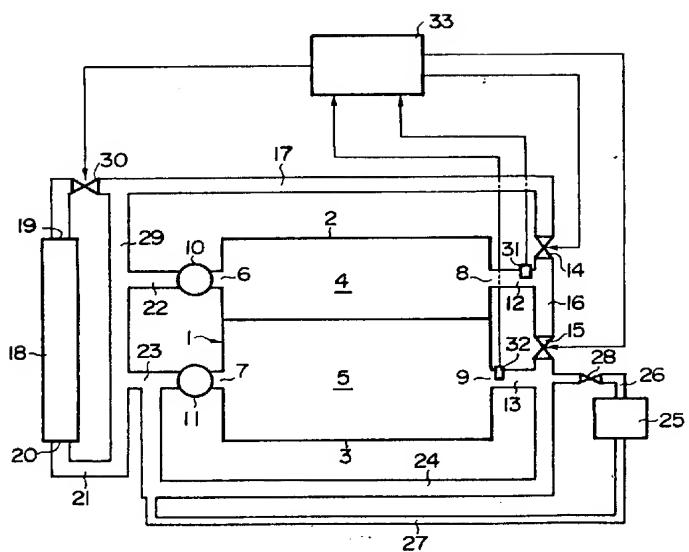
- 3 4 -

8～ケース、69～熱膨張性物質、70～ガイド  
 部材、71～ばね、72～ホルダ、73～弁要素、  
 74～弁座部、75～感温アクチュエータ、76  
 ～ケース、77～ニードル、78～熱膨張性物質、  
 79～軸部材、80～弁要素、81～ばね、82  
 ～スナップリング、83～弁座部、84～ニード  
 ルガイド、85～ばね、

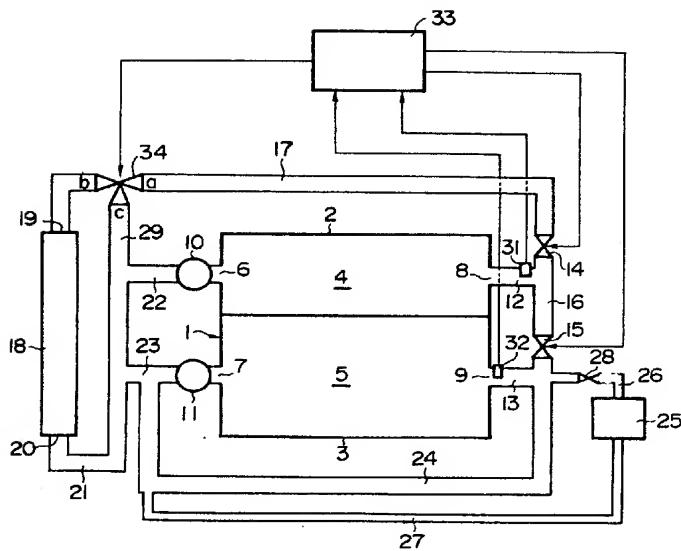
特許出願人 トヨタ自動車工業株式会社  
 代理人 弁理士 明石昌毅

- 35 -

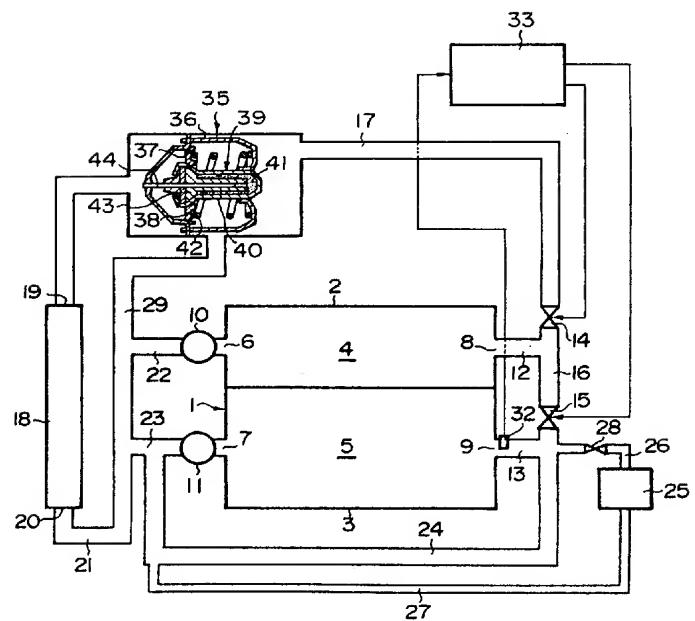
第一図



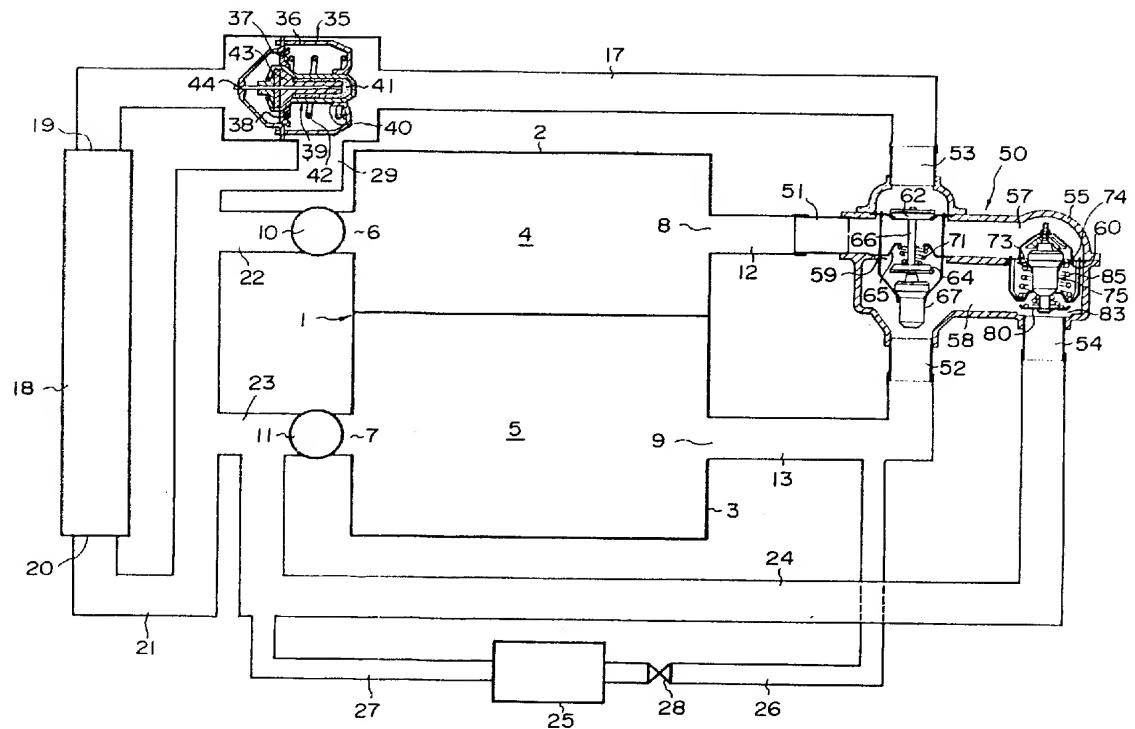
第 2 図



第 3 図



第 4 図



(自 発)

## 手 続 補 正 書

昭和56年2月13日

特許庁長官 島 田 春 樹 殿



1. 事件の表示 昭和55年特許願第169934号

2. 発明の名称 エンジンの冷却装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 愛知県豊田市トヨタ町1番地

名 称 (320) トヨタ自動車工業株式会社

代表者 豊 田 章 一 郎

4. 代 理 人

居 所 〒104 東京都中央区新川1丁目5番19号

茅場町長岡ビル3階 電話551-4171

氏 名 (7121) 弁理士 明 石 崑 殿



5. 補正命令の日付 自 究

特許庁

一の温度以上で該第一の温度より高い第二の温度以下のとき前記第一の還流通路を前記第一のウォータジャケットに接続し前記第二の還流通路を前記第二のウォータジャケットに接続し前記水温が前記第二の温度以上のとき前記第一の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットに接続するよう構成され、更に前記ラジエータをバイパスして前記第一の還流通路の途中を前記第一のウォータジャケットの入口に接続するバイパス通路と、前記第一のウォータジャケットを貫流する冷却水の水温が所定温度以下に低下することを防止すべく前記バイパス通路を通過する冷却水の流量を制御する流量制御弁とを有していることを特徴とするエンジンの冷却装置。』

(2) 明細書第4頁第3行の「小さくして」を「低くして」と訂正する。

(3) 同第5頁第7行の「貫流する水温」を「貫流する冷却水の水温」と補正する。

(4) 同第5頁第12行の「大きい」を「高い」と訂正する。

(1) 特許請求の範囲を以下の如く補正する。

『シリンドヘッドに設けられた第一のウォータジャケットと、シリンドブロックに設けられた第二のウォータジャケットと、前記第一及び第二のウォータジャケットを通る冷却水流を各々付勢する第一及び第二のウォータポンプと、ラジエータと、前記第一及び第二のウォータジャケットの出口をそれらの入口に接続し途中に前記ラジエータを含む第一の還流通路と、前記第一及び第二のウォータジャケットの出口をそれらの入口に接続し途中に前記ラジエータを含まない第二の還流通路と、前記第一のウォータジャケットに対する前記第一及び第二の還流通路の接続及び前記第二のウォータジャケットに対する前記第一及び第二の還流通路の接続を切換える切換弁とを有し、前記切換弁は前記第二のウォータジャケットを貫流する冷却水の水温が第一の温度以下のとき前記第二の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットに接続し前記第一の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットより切離し前記水温が前記第

(5) 同第5頁第17行乃至第18行の「ジャケットに接続し前記第二の還流通路を前記第一及び第二のウォータジャケットより切離すよう」を「ジャケットに接続するよう」と訂正する。

(6) 同第6頁第7行、第8頁の第8行及び同頁第10行の「還流」を「貫流」と訂正する。

(7) 同第6頁第11行及び第10頁第8行の「貫流」を「還流」と訂正する。

(8) 同第9頁第7行の「ジャケットに貫流した」を「ジャケットを貫流した」と訂正する。

(9) 同第13頁第6行の「大きい」を「高い」と訂正する。

(10) 同第13頁第14行の「小さい」を「低い」と訂正する。

**PAT-NO:** JP357093621A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 57093621 A  
**TITLE:** COOLER FOR ENGINE  
**PUBN-DATE:** June 10, 1982

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
FURUKUBO, TATSUMI	
HIRAYAMA, TSUTOMU	

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
TOYOTA MOTOR CORP	N/A

**APPL-NO:** JP55169934

**APPL-DATE:** December 2, 1980

**INT-CL (IPC):** F01P007/14 , F01P003/20

**US-CL-CURRENT:** 123/41.08 , 123/41.72

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** To improve the output performance and fuel efficiency of an engine, by providing a passage to by-pass a radiator lest the temperature of cooling water flowing through a water jacket should become lower than a prescribed level.

**CONSTITUTION:** A portion of cooling water having

passed through a water jacket 5 flows to a radiator 18 through a conduit 13, a control valve 15, a conduit 16, a control valve 14, a conduit 17 and a control valve 30. The water is cooled as it passes through the radiator 18. After that, the water is returned to the water jacket 5 through conduits 21, 23 and an inlet port 7 by a water pump 11. The other portion of the cooling water is returned to the water jacket 5 through the conduits 13, 24, 23 and the inlet port 7 by the water pump 11. When the temperature of the cooling water flowing through the water jacket 5 has fallen beyond a prescribed value, this phenomenon is detected by a water temperature sensor 32 to close the control valve 14 and open the control valve 15 so that the temperature of the cooling water rises gradually.

COPYRIGHT: (C)1982, JPO&Japio